

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470700713
法人名	有限会社 ころ
事業所名	グループホーム ころ
所在地 (電話番号)	松阪市八重田町485-2 (電話) 0598-63-0987
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 5 月 21 日(水)

【情報提供票より】 (H20年4月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 9人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4)利用者の概要(4 月 15 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2		1 名	
要介護3	6 名		要介護4		2 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	84 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	松阪中央病院 在宅医療ゆめ 中村クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ノスタルジックな山並みと田園風景、静かな環境の中にあるグループホームである。高齢者福祉に前向きで経験豊かな看護師であるホーム長のもと「その人らしい生き方を尊厳した生活援助を行う」という理念を共有し、利用者一人ひとりの意見や希望に基づいた生活を支えていく為の努力を怠らないスタッフの笑顔と明るく元気な対応で、安心・安楽な暮らしの時間がゆったり流れる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であった「地域とのつきあい」については、前向きに地域とかかわる機会を増やし、「重度化・終末期に向けた方針の共有」については、医療機関や家族とよく話し合い前向きな姿勢と対応が窺える。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価もスタッフが調査の意義・目的を充分理解し、改善課題やサービスの質的向上に努力している。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議での検討事項や懸案事項については、全スタッフに報告しサービス向上に生かしている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ころのたよりや面会時の対応で「何でも言える」雰囲気づくりをして、把握した意見や意向を運営・サービスに反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>外に出かけること、日常的な近隣への散歩・お庭拝見、地域老人会活動に参加等、地域との関係づくりを丁寧に行っている。</p>
重点項目④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい生き方を尊重して生活の援助を行う」を事業所の理念として、家族やボランティア・地域住民との交流が自由にできる地域密着型サービスを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念は、ケア会議・日々の引継ぎ等で常に話し合い、確認・共有しサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩・お庭拝見、農作物を頂く、近隣住民や老人会に参加、地域の夏祭り等で地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全スタッフが自己評価・外部評価の意義・目的を理解し、サービスの向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一回開催しており、意見交換・話し合いを行いサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政や地域包括センターと頻繁に連絡・連携し、情報の交換・共有でサービスの質的向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホームこころのたよりで、事業所全体の状況と利用者個々の暮らしぶり・健康状態・金銭管理などについて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話・手紙で常に問いかけ、自由に意見が出せる雰囲気づくりに心がけ、出された意見や要望については、推進会議やケア会議などで検討し、サービス向上に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の心情に配慮し、ダメージにならないように馴染みの関係を日頃から大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長の豊富な経験を生かし、ケア会議等事業所内研修、及び事業所外研修にも積極的に参加し、スタッフのスキルアップに取り組んでいる。過去に介護福祉士国家試験合格者・ケアマネージャー合格者を出した研修意識の非常に高い事業所である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に参画し、ネットワーク作りや勉強会、相互の交換実習等取入れ、情報交換・スキルアップに積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所や訪問の機会を設けて、家族共々利用者が馴染んでいける人間関係を重視した配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作りや調理手伝い、役割遂行等、実生活に触れた生活共同体として喜怒哀楽の感情を共感し、ともに支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添い意思の疎通をはかり、日々の心情や言動から、個々の持つ思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や居宅ケアマネージャーなどと一緒に利用者ごとのケアプランを作成し、ケア会議で受持介護者だけでなく全スタッフで検討を重ね共有できる介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全スタッフ出席によるケア会議でケア計画の見直しを実施している。見直しについては、家族の意向や利用者自身の意見や要望も考慮して、随時・3ヶ月ごとに実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への送迎、家族旅行への同行、帰省や親戚訪問等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や医療機関と情報交換を行い、指導をいただき適切な支援を心掛けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期支援については、かかりつけ医・往診医・家族意向を考慮し、積極的に支援する方向で利用者の情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊厳し、プライバシーの確保を徹底し、個人情報を管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所理念に基づき、その人らしい暮らしを尊重し、利用者の意向を大切に考え支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	単なる栄養補給ということだけでなく、菜園づくり・収穫・役割も含めて、食べるにいたるプロセス・会話のある食卓を楽しむ等にまで配慮している。基本的にはスタッフも食事介護も兼ね一緒に楽しむ方法をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の身体的状況・意向に合わせて、個々に対応した入浴を楽しんでもらっている。入浴を楽しむことで歌が聞こえたり、楽しそうな話が聞こえたりで、リラックス・リフレッシュ効果のある入浴支援を実践している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園管理や洗濯物整理、生花や手芸、利用者個々の能力や趣味を取り入れた日々の生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体力・意向に合わせた外出を、積極的に支援している。個々に応じた外出を目標にしている。外出することで心身のリフレッシュ効果、生活をエンジョイすることへの支援と考えて実践している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近隣住民の理解のもと、日中は施錠なしで自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員による年2回の防災訓練を実施している。非常食・防災物品の設置もされている。地域には自治会や老人会と連携し、スタッフは常に防災意識を持って勤務する習慣を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態や水分補給状況を日々のバイタルチェックとともに観察記録し、利用者一人ひとりに応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者による手芸品、季節の花々、郷愁を感じる絵画が飾られ、清潔で明るい空間と明るく元気なスタッフの笑顔で、ゆったりとした環境が演出されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、馴染んだ家具や自身の手芸品が飾られ、家族の面会時にも、共に暮らせる空間として配慮されている。		